

中区地域福祉保健計画

新本牧地区

目指すまちの姿

新本牧は「あいさつ」でまちづくり
～広げよう!つなげよう!「人の和」～



- 本牧宮原
- 本牧和田
- 和田山
- 本牧原の一部

自転車安全教室



防災訓練

1: 子どもを中心に地域を盛り上げ、 困りごとを速やかに察知できる関係を作っていきます。

- 地元の小中学校の行事や取組みに関心を持ち、子どもたちとの交流を深め、街中でも気軽に「あいさつ」できる環境を目指します。
- 中学校の朝の「あいさつ」運動に参加し、顔の見える関係を作ります。
- 高齢者(食事会・サロン等)の集う場に子どもたちが参加できる機会を増やします。

2: 交流の場を充実し、 多世代に渡って助け合えるまちを目指します。

- 地域にある施設や団体、企業と協力関係を深め、地域での参加の輪を広げていきます(施設・団体・企業の行事に積極的に共同参加する)。
- 各自治会のラジオ体操を充実し、健康づくりをしながら様々な世代交流を深めます。
- 夏の本牧神社例大祭(お馬流し)を通じて住民の交流を促進します。

3: 環境面で住みやすい街づくりを通して、 住民が健康で安全に暮らせるようにします。

- 各自治会の清掃活動を充実させまち全体をきれいにします。
- 地区や自治会主催の防災訓練により多くの住民の参加を促していきます。
- 警察や自転車販売店と協力し自転車マナー向上&路上駐車減を目指した広報活動を行います。

これまでの計画(第4期計画)の振り返り

- あいさつ運動を継続して実施し、地域の子どもたちと住民の交流が多少進みました。
- 計画後期に小中学生に地域のイベントに参加してもらい内容の充実化を図りました。
- 3地区(第4南部・本牧根岸・新本牧)共催イベント「本牧ライトアップ」を開始し10年目を迎え、年々地区の住民に浸透していきました。
- 高齢者食事会や日帰りバス旅行の充実化を進めました。
- 自治会のない集合住宅で全世代参加型のサロンを立ち上げ、小学校の子どもたちと高齢者や住民が交流を深めることができました。
- 警察協力のもと、自転車安心安全教室を開催し、まちの環境の充実と世代を越えた住民の交流ができました。
- 防災訓練も小学校と連携して地域住民の参加を増やしました。



新本牧地区はこんなまち！

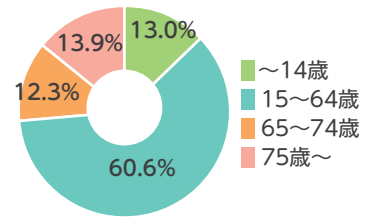
米軍の接收地だった土地を新たに開発してできた地域で、開発とともに移り住んだ住民が多いまちです。区画整理により公園や緑に囲まれ、道幅も広く景観が良いのが特徴です。地域の担い手として、現役世代が多く活躍しています。

新本牧地区の統計データ

人口

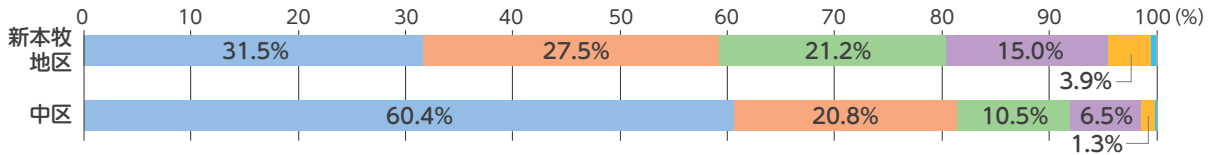
	合計	～14歳	15～64歳	65～74歳	75歳～
新本牧地区	8,941人	1,167人	5,421人	1,102人	1,251人
	100.0%	13.0%	60.6%	12.3%	13.9%
中区	155,313人	14,103人	104,356人	16,773人	20,081人
	100.0%	9.0%	67.1%	10.8%	12.9%

〈新本牧地区の人口割合〉



世帯人員別世帯数

■ 1人 ■ 2人 ■ 3人 ■ 4人 ■ 5人 ■ 6人 ■ 7人以上



住民の居住年数 (総数9,238人)

■ 出生時から ■ 1年未満 ■ 1年以上5年未満 ■ 5年以上10年未満
■ 10年以上20年未満 ■ 20年以上 ■ 不詳



新本牧地区の約2割が65歳以上の高齢者世帯です。働き世代も多く居住しており、7割程度が2人以上の世帯であることから、ファミリー層が多く住んでいると考えられます。

地域の3割程度は10年以上の居住年数になっており、地域に長く住んでいる人も増えてきました。単位自治会ごとに個性的な行事もあり、つながりや交流ができるような個性のある取り組みも見られるようになってきました。様々な世帯が暮らしているため、世代や世帯人員数などを越えて、幅広くつながりをつくっていくことが大切です。

出典記載のないものは「横浜市統計情報ポータル」(令和7年3月現在)より引用しています。

第5期計画はこのように作りました

自治会町内会長、地区民児協、区民利用施設や福祉施設などで構成された「新本牧地区元気づくり推進協議会」で実施したアンケートをもとに計画の原案を作成し、それについて再び意見をもらい、計画を完成させました。アンケートでは、「日ごろの挨拶が大切。そういったつながりが有事の際にも有効に働く。」「交流の機会があり、継続してほしい。」「声をかけ合えるまちにしたい。」などのご意見や、高齢者の見守りや外国人居住者との交流、防災の取組についてのご意見もありました。

